

サトウハチロー

傘の上には氷雨

傘の上には氷雨

傘はむらさき色の蛇の目

傘の中にひろがる 母のためいき

傘の中でそれを聞く 小さなわたし

ときおり 傘をまわす母

たえられないさみしさを

まぎわらすためか

サトウハチロー

はじけるいろりのそだの音

はじけるいろりの そだの音

自在のお鍋の 煮える音

夜更けに垂木の きしむ音

ああ どれもこれも

わが母の つぶやきか・・・

サトウハチロー

霜悲しみにとぢた

母親のまつ毛

霜 悲しみにとぢた母親のまつ毛

木枯らし メロデイのないあの子の口笛

粉雪 音もなくつもるさみしき

氷柱 光るのはやっぱり涙

サトウハチロー

わたしは時々 足の親指をみる

わたしは時々 足の親指をみる

つくづくとながめる

わたしの足の親指は

そのまま母の足の親指

わたしはそれを

いつまでもみている

ながめてる